

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 高校教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	グローバル人材育成プログラム	
施策名	【重点】子どもたちの英語力の向上と国際的に活躍できる人材の育成	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
			目標値	3	6	9
現況値	8校(2015年度)	実績値	3	8	11	11
目標値	20校	達成率	100%	133.3%	122.2%	91.7%
備考	各年度の目標値は現況値からの増加数	達成度	4	5	5	3

3 事務事業評価

担当部課室	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	県民生活部 国際課	岡山発！留学生倍増計画	<p>実施目的 大学生等の海外留学を促進し、実践的な語学力やコミュニケーション能力を備えた人材を育成する。</p> <p>成果・課題 留学促進フェアの開催等により、県内の留学者数は1,416人で、達成率は170.6%となった。引き続き、留学促進フェアにおける留学に関する情報発信や周知・広報、関係機関との相談機会の提供等により、学生の留学への関心・意欲の喚起に努める。</p>
教育委員会 高校教育課	おかやまの高校生留学支援事業	<p>実施目的 グローバル人材に必要な語学力、コミュニケーション能力等を育成するため、本県高校生の留学への意識付けと留学促進のための環境を整備する。</p> <p>成果・課題 新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの国・地域において、日本からの渡航者に対する入国制限措置や入国後の行動制限措置が行われていることを踏まえ、留学経費の支援を中止した。姉妹校交流についても、新型コロナウイルス感染症の影響により、新規提携校の開拓には至らなかったが、オンラインでの国際交流により、姉妹校間での近況報告や文化交流、コロナ禍により来日できなかった学生との交流等を実施した。</p>	2
教育委員会 義務教育課	英語力向上ICT教材活用事業	<p>実施目的 小学校英語の教科化や中学校英語の高度化等を踏まえ、小・中学校の英語の授業でICT教材を活用し、児童生徒の英語の聞く・話す能力の育成を図る。</p> <p>成果・課題 オンライン英語教材を活用することにより、一斉指導と比べて個々の児童生徒の英語での発話量が多くなり、学習意欲の向上につながるとともに、1人1台端末を授業で活用することに慣れ、効率よく活用することができるようになった。一方で、オンライン英語教材は、学校の学習状況や児童生徒の実態に沿った対応が難しく、通信環境や教員の支援体制等に課題が残った。</p>	3
平均			3.0

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

本県の中学校3年生及び高校3年生の英語力については、2019年度時点の調査結果では上昇傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により調査が中止とされたため、2020年度時点での状況は不明である。海外交流や国際交流については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの国・地域において日本からの渡航者に対する入国制限措置や入国後の行動制限措置が行われていることから、留学経費の支援を行うことができず、姉妹校交流についても新規提携校の開拓には至っていないが、オンラインでの国際交流により、姉妹校間での近況報告や文化交流、コロナ禍により来日できなかった学生との交流等を実施した。

6 今後の施策推進に向けての課題

高校生の英語ディベート大会や英語コンテスト等への参加者の一層の拡大に努めるなど、児童生徒の英語力の向上に向けた取組の推進が必要である。また、海外留学については、今後の新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、従前の水準までの回復を目指すとともに、生徒1人1台端末の導入も踏まえ、ICTを活用した国際交流のさらなる拡充が必要である。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 高校教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	グローバル人材育成プログラム		
施策名	【重点】グローバル化に対応した教員の育成と確保		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○英検準一級以上等を取得している英語担当教員の割合(中学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	35.0	40.0	45.0	50.0
現況値	23.1%(2015年度)	実績値	28.5	34.2	39.3	-
目標値	50.0%	達成率	81.4%	85.5%	87.3%	※-
備考	英語教育実施状況調査結果	達成度	3	3	3	※-

指標名	○英検準一級以上等を取得している英語担当教員の割合(高等学校)	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	75.0	75.0	75.0	75.0
現況値	55.6%(2015年度)	実績値	76.9	86.0	85.1	-
目標値	75.0%	達成率	102.5%	114.7%	113.5%	※-
備考		達成度	4	4	4	※-

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	教育委員会 義務教育課	生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業	実施目的 外部検定試験を活用した教員の英語力の把握や、民間事業者と連携した教員研修の充実等により、英語指導の質的向上を図るとともに、グローバル化に対応できる教員の育成を図る。	成果・課題 中学校教員を対象として英語力や指導力向上のための研修を実施し、教員自身の英語力向上への意識付けとなった。実践的な演習を多く取り入れた集合研修は、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえ、実施方法の工夫が必要である。
教育委員会 義務教育課	英語教員指導力向上事業	実施目的 指導力のある退職教員等を派遣し、中学校の英語の授業改善を図る。	成果・課題 中学校の英語の学力向上に向けて、指導力のある退職教員等を英語指導エキスパートとして継続的に学校に派遣し、特に若手教員を中心に英語の指導力向上を図るための指導・助言を行った。派遣対象校や指導頻度の拡大のためには、人員の確保が課題である。	3
平均				3.0

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

研修等で自身の英語力を向上させる意義を再認識させ、自己研鑽への意欲向上を図った。また、ネイティブ・スピーカーや外国語指導助手の県立学校への配置等により、グローバル化に対応できる教員の育成が図られた。

なお、本県の中学校及び高等学校英語担当教員の英検準一級以上等の取得率について、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査が中止とされたため、生き生き指標の達成状況は不明である。

6 今後の施策推進に向けての課題

指導力のある退職教員等を派遣し、中学校の英語の授業改善を図る「英語教員指導力向上事業」については、派遣対象校や指導頻度の拡大のために、人員の確保が課題である。また、ICTを活用した効果的な指導法の研究等により、引き続き教員の英語力と指導力の向上を図る必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 高校教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	グローバル人材育成プログラム		
施策名	【重点】科学技術教育の推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○国際科学コンテスト(理科4分野)における国内大会の参加者数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	280	300	320	350
現況値	253人/年(2015年度)	実績値	361	343	358	184
目標値	350人/年	達成率	128.9%	114.3%	111.9%	52.6%
備考	理科4分野の国内大会(物理チャレンジ・化学がラブリ・日本生物学利権・日本地学利権)への参加者数	達成度	5	4	4	2

3 事務事業評価

教育委員会 高校教育課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	サイエンスチャレンジ	<p>実施目的 他者と協働してコミュニケーションを取りながら、課題発見・解決を行う力を養い、理数好きの裾野を広げるとともに、さらなる資質能力の伸長を図る。</p> <p>成果・課題 国際科学コンテスト(理科4分野)における国内大会への参加者数は、これまで堅調に推移してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響による試験日程の変更、学習機会確保のための夏季休業の短縮等の影響により、参加者数が激減した。引き続き、科学に関する興味・関心の高揚を図るため、さらなる内容の充実を図るとともに、全国大会で優秀な成績を収める生徒数を増加させるため、中学校段階からの人材育成を図る必要がある。</p>	2
		平均	2.0

4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

2020年度の国際科学コンテスト(理科4分野)における国内大会への参加者数は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う夏季休業の短縮等の影響もあり、目標値の達成に至らなかったが、感染症対策に留意した上で「サイエンスチャレンジ」事業を実施し、科学に興味関心が高い高等学校等の生徒が団体で協力して科学技術・理科・数学等の競技に取り組むなど、科学に関する興味関心の高揚及び学力の向上に繋がった。

6 今後の施策推進に向けての課題

今後も、国際大会や全国大会で優秀な成績を収める生徒数を増大させるため、「サイエンスチャレンジ」事業のさらなる内容の充実を図るとともに、中学校段階からの人材育成を図る取組が必要である。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	教育委員会 高校教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	グローバル人材育成プログラム		
施策名	【重点】情報化社会に対応した教育		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○プログラミングコンテストにおける参加数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	5	10	15	22
現況値	2団体/年(2015年度)	実績値	10	10	11	7
目標値	22団体/年	達成率	200%	100%	73.3%	31.8%
備考	全国レベルのプログラミングコンテストへの参加数	達成度	5	4	2	1

3 事務事業評価

教育委員会 高校教育課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	プログラミングコンテストへの道	<p>実施目的 情報化社会においては、情報活用能力の育成が求められており、プログラミングや情報セキュリティなどのICT教育の充実に努め、子どもたちのICTに対する興味を育むとともに、多様化する課題にICTを活用して創造的に取り組む力の育成を図る。</p> <p>成策・課題 新型コロナウイルス感染症の影響により、全国規模のプログラミングコンテストの一部が中止となったことや、学習機会確保のための夏季休業の短縮等の影響により、2020年度の参加数は2019年度から減少し、目標値の達成にも至らなかった。今後、研修の大部分をオンラインで実施することにより、コロナ禍に対応した実施形態とするとともに、コンテスト参加に直接つながるよう、研修講座の内容のさらなる充実を図る必要がある。</p>	2
平均			2.0

4 施策達成レベル

1.2	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

2020年度の「プログラミングコンテストへの道」事業への参加数は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う夏季休業の短縮等の影響もあり、目標値の達成に至らなかったが、感染症対策のため「プログラミングコンテストへの道」事業の一部をオンラインで実施し、当該事業においてIT業界の専門家等の講演会等を行うなど、生徒の興味関心の喚起につなげる取組を行った。また、2020年度からの小学校におけるプログラミング教育必修化に向け、指導法の研修講座や体験研修等を実施し、教員の指導力向上を図った。

6 今後の施策推進に向けての課題

今後の研修の大部分をオンラインで実施することにより、コロナ禍に対応した実施形態とするとともに、コンテスト参加に直接つながるよう、研修講座の内容のさらなる充実を図る必要がある。また、プログラミング教育の必修化により、小・中・高で発達段階に応じた継続的な取組が必要である。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 高校魅力化推進室
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	グローバル人材育成プログラム	
施策名	【推進】時代の変化に対応した魅力ある学校づくり	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
教育委員会 高校魅力化推進室	おかやま創生を担う若い力の育成(高校パワーアップ事業)	実施目的 地域の課題やニーズを踏まえ、おかやま創生を担う人材の育成や地域の活性化に貢献する高校の魅力化を図り、今後、おかやま創生のモデルとして、県下への展開を行う。	4
		成果・課題 地域で役立ちたいと思う生徒の割合は、目標値を達成しており、一定の成果が見られた。また、県教育委員会において、事業指定校を含めた地域連携の取組を、フォーラム開催等を通して県下の高等学校等へ広く周知することができた。事業指定校では、地元自治体への働きかけや学校運営協議会制度の導入等、地域と連携した持続可能な体制の構築を図った。	
教育委員会 高校魅力化推進室	高等学校魅力化推進事業	実施目的 2019年2月に策定した岡山県立学校教育体制整備実施計画を踏まえ、県立高校の魅力化を推進する。	3
		成果・課題 事業実施校においては、地元の自治体や企業との連携に基づく取組を進めており、事業に併せて予算措置等を講ずる自治体も見られる等、一定の成果が認められる。また、このような各事業実施校の好事例等を共有する連絡協議会を実施し、共通理解を得ながら取組を進めている。各事業指定校において、持続可能な体制の構築に向けて、地元自治体をはじめとした関係者との連携を強化する必要がある。	
平均			3.5

4 施策達成レベル

3.5	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを 4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

岡山県高等学校教育研究協議会(高教研)の提言を踏まえて策定した、「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」に基づき、モデル校において、地元の自治体や企業との連携を基盤とし、時代の変化や地域の状況に応じた魅力ある学校づくりを推進した。

6 今後の施策推進に向けての課題

地元の自治体や企業との連携に関し、モデル校間における取組の差が生じている等の課題が見られる。好事例について、連絡協議会における担当教員等との情報共有を行うとともに、高校生探究フォーラムで広く周知するなど、県下一丸となって取組を進める必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	教育委員会 高校教育課
重点戦略	I 教育県岡山の復活	
戦略プログラム	グローバル人材育成プログラム	
施策名	【推進】大学等との連携	

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
教育委員会 高校教育課	高大連携の推進	実施目的 専門的な知見・資源を有する大学等との連携を推進し、生徒の学習活動の充実等を図る。	3
		成果・課題 大学教員による高等学校での講義や、高校生向けの大学主催講座の設定等の形態による連携が行われているが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により大学主催講座の中止や、講義の実施形態等の変更により、取組が実施できない学校が見られ、100%としていた目標の達成には至らなかった。引き続き、連携事例の共有などを図ることで、高大連携の取組を促進する必要がある。	
教育委員会 生涯学習課	子ども応援人材バンク	実施目的 企業・団体・大学等が持っている専門的な知識や経験などを学校教育に取り入れながら、子どもの豊かな学びや成長を支援する体制を構築する。	4
		成果・課題 子ども応援人材バンクが、学校に広く周知されるようになったことや、岡山県生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」へ登録・掲載することにより、多くの学校で活用された。新型コロナウイルス感染症の影響により、新たに学校と企業をマッチングする件数は減少した。	
平均			3.5

4 施策達成レベル

3.5	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う大学主催講座の中止等の影響もあり、目標値の達成には至らなかったが、大学教員による高等学校での講義や、高校生向けの大学主催講座の設定等の学習活動の充実等、高等学校において高大連携の取組が図られている。また、岡山大学教育学部及び岡山市教委と連携協力会議を開催し、教員養成や教員研修、学校教育上の諸課題への対応に関する事項等において協議を行うなどの連携も図られた。企業等との連携について、子ども応援人材バンクの活用件数は着実に伸びており、学校、企業双方に本事業が定着しつつある。

6 今後の施策推進に向けての課題

高大連携の取組を実施していない学校が固定化されていることや、大学進学希望者が少ない高校における実施の少なさなどの課題があり、引き続き、事例の共有化を図ること等により連携の促進を図る必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 国際課
重点戦略	I 教育県岡山の復活		
戦略プログラム	グローバル人材育成プログラム		
施策名	【推進】多文化共生の地域づくりの推進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	県民生活部 国際課	岡山国際交流センター管理運営事業	<p>実施目的 県民と在住外国人との交流を深め、互いの文化を理解し、多様性を受け入れ、地域社会で共に生きていく多文化共生の地域づくりを進める。</p> <p>成果・課題 多言語による生活相談・情報提供や日本語講座の開設、各種交流会の開催など、多文化共生の地域づくりに向けた取組を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業を中止したことや、実施回数を減らしたことなどから、目標値を下回った。今後は、オンラインのさらなる活用を図るとともに、事後アンケートなどにより、参加者のニーズにきめ細かく対応できるよう、事業内容の改善や工夫を図る。</p>

平均	2.0
----	-----

4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

多言語による生活相談・情報提供のほか、日本語講座の開設や通訳ボランティアの養成等のコミュニケーション支援、各種交流会の開催等を通じた国際理解の促進など、多文化共生の地域づくりを推進した。

6 今後の施策推進に向けての課題

今後、県内の在住外国人はますます増加することが見込まれることから、社会情勢や地域の実情の把握に努めるとともに、様々なニーズに対応できるよう、事業内容の改善や工夫を図るなど、よりきめ細かに事業を実施していく必要がある。